

震災廃棄物現地選別施設等の視察レポート

—復旧・復興に向けて—

本年3月から、東京23区部の清掃工場で宮城県女川町の災害廃棄物の本格的な受入処理が始まっています。東京23区清掃一部事務組合（以下、一組）は、災害廃棄物を焼却処理するのに先立ち、当該廃棄物を法令及び一組の管理基準に適合した処理ができることを確認するため、大田清掃工場及び品川清掃工場で試験焼却を実施しました。試験焼却において、当該廃棄物をおおむね20%の混合比率で焼却した結果、法令等に適合した処理ができました。また、ご

み焼却の状況も通常ごみ焼却時と同程度だったことから本年3月2日からの本格的な受入処理が始まったものです。

本部は、一組総支部と共に被災地（女川町）の復旧・復興の状況、災害廃棄物の放射能測定や選別・搬出状況、東京の清掃工場における受入・搬入状況、最終処分場での高濃度の焼却灰の保管状況などを確認することを目的として関連する現場の視察を行いました。



今も延々と続く災害廃棄物仮置場の様相は、あらためて被害の甚大さを物語っていた

震災から一年以上が経ち、復旧・復興に向けた取組が進められています。大きな障害となっているのは、全復興は不可能な状態となっています。

震災から一年以上が経ち、復旧・復興に向けた取組が進められています。大きな障害となっているのは、全復興は不可能な状態となっています。

震災から一年以上が経ち、復旧・復興に向けた取組が進められています。大きな障害となっているのは、全復興は不可能な状態となっています。

震災から一年以上が経ち、復旧・復興に向けた取組が進められています。大きな障害となっているのは、全復興は不可能な状態となっています。

震災から一年以上が経ち、復旧・復興に向けた取組が進められています。大きな障害となっているのは、全復興は不可能な状態となっています。

宮城県女川町の災害廃棄物の受入処理

2011年3月11日の東日本大震災は、東北地方を中心に未曾有の被害をもたらしました。東京が災害廃棄物を受け入れている宮城県女川町は、最大高さ15mにも及ぶ津波に襲われ、死者、死亡認定、行方不明者の数は、827人（2012年3月現在）にのぼり、町全体の人口の一割にもなります。家屋の被害は、町全体の八割以上にあたる3、270棟が半壊以上の被害を受けました。



選別ラインで選別される前の災害廃棄物

放射能汚染の懸念から、他の自治体における広域処理は進んでいません。

清掃現場の第一線で働く労働者で構成する労働組合として、受入にあたっての安全性の確認は当然のことです。

本合意に基づき、震災により発生した広域的に処理をすることが必要な女川町の災害廃棄物（木くず等の可燃性廃棄物）を東京23区内の清掃工場で受入処理することとしました。東京23区部で稼働中の全19工場で2013年（平成25年）3月までの間に5万t（一日平均150t）の当該廃棄

物を受け入れる予定になっています。被災地の復旧・復興のために支援、協力することは誰もが前向きに受け止める場所ですが、福島第一原発事故による災害廃棄物への放射能汚染の懸念から、他の自治体における広域処理は進んでいません。

女川町災害廃棄物選別施設の視察

6月20日（水）、女川町に、東京23区清掃一部事務組合（以下、一組）の視察団が訪れました。震災により、JR石巻線の「渡波」～「女川」間は線路が分断されて未だに運休状態が続いています。仙台まで新幹線で移動し、仙台からはレ

ンタカーで女川町に入り、前日までの台風と大潮の影響で道路の多くの箇所が浸水していました。震災による地盤沈下が酷い所では1mにも及んでいることから、こうした台風などの大

物を受け入れる予定になっています。被災地の復旧・復興のために支援、協力することは誰もが前向きに受け止める場所ですが、福島第一原発事故による災害廃棄物への放射能汚染の懸念から、他の自治体における広域処理は進んでいません。



丁寧な説明をいただいた現地職員の皆さん（左側）荒井氏／東京都、（中央）佐藤氏／宮城県、（右側）千葉氏／女川町

「引き続き女川町震災廃棄物対策係の千葉氏からは、お陰様で、仮置場全体の約30%が処理されました。当初仮置場に使用していた岸壁も全て処理出来て、現在

『冷凍冷蔵施設』を建設中です。女川町は水産加工が盛んで、復興の足がかりになるのではないかと考えています」と感謝の言葉が述べられました。

東京都環境局災害廃棄物処理支援担当の荒井氏からは、「台風の後で交通も混乱している中をお越しいただき、ありがとうございます。『東京都が女川町の災害廃棄物を処理しているか』のような報道をされていますが、東京都が行っているのは現地での放射線のチェックですとか、安全に搬出出来るものを清掃工場までお届けするものが東京都の役割です」



4つある選別ラインの一つ



選別作業に従事する作業員（写真提供／女川町）

木材、金属、コンクリート殻をそれぞれのヤードに振り分け、その後、サイズ毎に再選別し、30〜200mmサイズを手選別ラインに乗せます。手選別ラインは4ラインあり、それぞれのラインに10人が従事すると、最も多い時で40人が作

三段階での放射線量測定

最も気になるのがやはり放射能の測定です。現地の職員の方達もそのことは十分に承知をしていて、詳細な説明をいただきました。搬出にあたっての災害廃棄物の放射能測定などの管理は、(財)東京都環境整備公社が行っています。実際に搬出されるまでに三段階で放射線量を測定し、安全が確認された災害廃棄物だけを搬出しています。また災害廃棄物の組成ごとに放射能濃度を測定して

国の広域処理のガイドラインでは、バックグラウンド数値の3倍を超えたら搬出を行ってはいけないことになっていて、選別が行われた廃棄物を1時間ごとに測定しています。

前日(6月19日)の数値は「0.09〜0.11μSv/h」で、バックグラウンド数値と比較しても差が無い測定結果となっていました。今までも基準を超えたことはないということでした。② 廃棄物そのものからの測定(遮蔽線量率) 当該廃棄物を入れるコンテナの中の10箇所から廃棄物を取り出し、測定用のサンプルを作っています。サンプルを鉛で出来た箱の中

で測定します。まず何も無い状態で測定すると、「0.10μSv/h」という数値でした。箱自体に遮蔽効果があるので箱を閉めて測定すると数値は1/4になるといことです。廃棄物を入れて測定し、何も無い

状態での測定値との差がどのくらいになるのか判断となります。基準となる数値が「0.023μSv/h」で、前日の廃棄物の測定値が「0.10μSv/h」、

定値が「0.024μSv/h」でした。基準との差は0.001μSv/hなので、廃棄物自体から放射線が出ているわけではない



廃棄物選別後に最初の放射能測定 (写真提供/女川町)



二段階目の測定用のサンプル作り



二段階目の測定、測定箱の中でサンプルを測定する



測定したデータについて説明をいただく



東京都環境整備公社職員の立会いのもと、災害廃棄物がコンテナに入れられる



輸送車にコンテナを積載した状態で最後の測定

と判断できる結果となっていました。

③ コンテナの線量率(μSv/h)以下の数値が出ていました。前日(6月19日)の数値は「0.08〜0.09μSv/h」で、バックグラウンド数値と比較しても差が無い結果となっていました。

貨物輸送車にコンテナを積載した状態で、最後の測定を行っていました。コンテナ自体による遮蔽効果が

現地の職員との主な質疑応答

(問) 石巻ブロック(石巻市、東松島市、女川町)で焼却能力1、500t/日の仮設焼却炉(300t/日×5基)設置し、5月13日から既に1炉が稼働し、8月からは残りの4炉も稼働すると聞いている。特別措置法による処理だと平成25年度末に処理を終わらせることになる。仮設焼却施設での処理の目処を教えてください。

(答) 特別措置法により震災発生から三年以内に処理を終わらせるという目標があり、その期間内にどのくらい処理できるかが課題。引き続き東京都に処理をしてもらおう女川町の分を差し引くと、石巻ブロックの残りの災害廃棄物は130数万tになる。仮設焼却施設での処理は68万t程度を見込んでいるので、約半分程度を仮設焼却炉で処理できる見込みである。県内では、他にも宮城県や仙台市が仮設焼却炉を作っているの

で、そこで受け入れてもら

は、大宮を経由して武蔵野線を使っているの、川崎のほうから大井にある東京貨物ターミナルに輸送している。

(問) 工場に搬入する際に封印環を外しているが、どこで封印をしているのか。

(答) 災害廃棄物を積んだコンテナは、陸路で仙台ターミナルに輸送している。封印は仙台ターミナルで行っている。

(問) 手選別作業をしている方たちの人数やどういった方たちが作業されているのか。どういう時間帯で作業をしているのか。週あたり

の作業頻度などを教えてください。

(問) 選別する以前の廃棄物の放射線量はどの程度なのか。

(答) 女川町内の線量は、0.10μSv/h前後で推移しているの、震災前と同程度の放射線量と見ている。町内の学校等でも測定しているが、同様の数値が出ている。

(問) 現在、受入処理をしている港清掃工場の近くに東京貨物ターミナルがあるが、どういうルートで搬入されているのか教えてください。

(答) 工場周辺の搬入経路までは承知していないが、鉄道輸送のルートについて

は、昨日の台風の影響で来られない方が多く、本日の選別ラインは停止になった。

働いている方は町民の方

がほとんどで、町外の仮設住宅に住まわれている方もいる。人数は、1ラインに8〜10人で作業をするの

で、最も多い時で40人くらい。勤務時間は午前8時〜午後5時まで。1時間作業をして15分休憩を取るサイクルを繰り返している。現地で働いていた水産加工場が無くなった方や漁業をやられていた方など、離職した方が中心になっている。

石巻ブロック処理施設の見学

宮城県では、膨大な量の廃棄物の処理を効率よく進めるため、気仙沼、石巻、宮城東部、亘理名取の各ブロックで仮設焼却施設を設置し、処理を行っています(仙台市・松島市・利府町・内陸市町村は独自処理)。今回、宮城県、環境省のご厚意により、本来は視察の予定になかった石巻ブロックの廃棄物処理施設を見学させていただくことができました。



石巻ブロック災害廃棄物焼却処理施設(ロータリーキルン炉、300t/日×2基)



石巻ブロック災害廃棄物焼却処理施設(ストーカー炉、300t/日×3基)

ここでの女川町の災害廃棄物の処理は、68万t程度を見込んでいて、他の自治体や民間業者の協力により

石巻市は渋滞多く、全車にGPS機能のついたタブレットを配置し、全車の位置関係を把握して搬入指示が出来るようになってい

他、何時何分にとのダンプが何を積んで来たのか把握も出来るようになってい

は、破碎選別設備は既に1系列が稼働中で、残る3系列も8月には全稼働予定となっています。土壌洗浄改質設備、コン殻破碎設備、

木くず破碎設備は6〜7月稼働に向け建設中で、仮設焼却路の総焼却能力は、1、500t/日(ロータリーキルン炉300t/日×2基、ストーカー炉300t/日×3基)あり、キルン

炉1号機は5月13日に既に稼働。残る4基も8月には稼働予定だという説明でした。

多くの受入先が決まったが、28万tが未定。積極的な支援を求めているという

吉田中央執行委員長お礼の挨拶

本日はお忙しい中を丁寧な対応をいただき、本当にありがとうございます。我われは、女川町の災害廃棄物を受け入れている職場で働く職員で構成する労働組合です。色々と問い合わせを受ける機会があります。これから受入を予定している自治体の労組からの問い合わせや、説明に来てくれないかという依頼もあります。説明をするにしても実際に自分の目で見ておかないと話も出来ません。働いている組合員の不安もあります。そういうことから、視察の受入をお願いしました。実際に見させていただくことで、なるほどと納得できる点が数多くありました。実際にこの目で見

た現地の状況を説明することで、東京清掃労組として復旧・復興につながる発信ができればいいと思っています。本日はありがとうございます。

女川町廃棄物選別処理施設、災害廃棄物処理業務（石巻ブロック）中間処理施設の視察
月日：2012年6月20日（水）

参加者：吉田中央執行委員長、山崎副中央執行委員長、染書記長、森田現業部長、斉藤教宣部長、岸野一組総支部委員長、中里一組総支部書記長、小林一組総支部執行委員

港清掃工場への搬入状況の視察

港清掃工場での受入処理が始まって二日目の6月12日、港清掃工場及び支部の協力を得て、女川町の当該廃棄物の搬入状況の視察を実施しました。港清掃工場の受入は、6月11日～7月7日までの間、日量48t、56tが予定されていました。



港清掃工場に入場するコンテナ車

工場に入場したコンテナ車は、①1号計量器の前で停車し、工場職員に封印環の確認を申し出、工場職員



立会いの下でドライバークンが封印環を切る。②1号計量器で配達伝票と封印環を提示し、工場は封印環と伝票を確認、受領印押印のうえ「控え」をドライバークンに返却する。③計量でICカードをタッチする。④ゲート案内表示板に従い、プラットホームに入場。防塵マスクを装着したドライバークンは、観音扉のロックを解除するなど排出の準備をする。④ゲートまでバックしてダンブアップして廃棄物を排出する。⑤プラットホームから退場。洗車棟で洗車する。⑥3号計量器で二度目の計量を行い、工場を退場する。以上の流れで港



計量器前で封印環を切る



ダンブアップして災害廃棄物を排出

コンテナは被災地で封印環を掛けられて輸送され、



工場敷地内の放射線量を測定する港清掃工場職員

焼却を行う清掃工場に到着するまで開封されることはない。災害廃棄物を受け入れる工場側も封印環と伝票を照合・確認するなど厳重な管理がされていることを確認できました。

港清掃工場災害廃棄物受入の視察
月日：2012年6月12日（火）
参加者：吉田中央執行委員長、染書記長、松永教宣部長
協力：港工場支部役員

【東京二十三区清掃一

部事務組合放射線障害防止指針から】
被ばく限度の考え方：一年間の被ばく線量が1mSvを超えないように務める。

作業環境管理：飛灰等の放射能濃度が8、000Bq/kg未満であることを確認するとともに、作業場における空間線量が2・5μSv/h以下であることを確認する。空間線量が2・5μSv/hを超えた場合は、当該作業場への作業者以外の職員の立入禁止、作業者の作業時間制限の措置を講ずる。

内部被ばく防止するための保護具：「ダイオキシン類ばく露防止対策」に準拠して保護具を着用する（タイベック、防じん・防毒マスク、エアラインマスク等を着用して作業）。

最終処分場での飛灰処理汚泥の保管状況について
本年1月1日に「放射性物質汚染対処特措法」が施行され、事故由来放射性廃棄物に汚染された廃棄物の法的取扱いが定められました。

昨年6月に江戸川清掃工場の飛灰からセシウム濃度（セシウム134及びセシウム137の放射能濃度の合計値）が9、740Bq/kg測定されました。その飛灰処理汚泥980tは東京都の管理する一般廃棄物最終処分場に保管されて

最後に

災害廃棄物の広域処理にあたって、当該廃棄物を搬出している現地（女川町）



最終処分場で保管されている飛灰処理汚泥

います。2月28日、枝川支部の協力を得て保管状況の視察を実施しました。

最終処分場での保管状況は、ベントナイトを敷いた上にフレコンバッグで梱包された飛灰処理汚泥を置き、覆土した上からブルーシート、遮水シート及び土嚢を置くという保管状況です。この状態での放射線量は測定されていないということです。

最終処分場での飛灰処理汚泥の保管状況の視察
月日：2012年2月28日（火）
参加者：吉田中央執行委員長、染書記長
協力：枝川支部役員

が注意を払っているのは、やはり放射能汚染について

全国各地で放射能汚染への懸念から広域処理に対する反対運動が起きています。女川町の選別施設では、災害廃棄物の搬出までに三段階の測定を経て厳密な放射能濃度を測定し、問題のある数値は測定されていないことが確認できました（測定結果は、毎日東京都環境局のHPで公開されています）。

女川町では、復興への足がかりとするため、災害廃棄物が撤去された土地に冷蔵冷凍施設を建設し、水産加工業の復興へ向けた努力がされています。現在、原発再稼働」を表明し、脱原発社会を求める世論に水を差すことになっています。

原発事故の収束に全力で取り組んでいる作業員の被ばくについて、労働安全衛生の立場からしっかりとした調査や安全確保を求めていることでした。

東日本大震災では、緊急非常時に行政はどうあるべきか、多くの課題をつきつけられました。私たちは住民に身近な清掃事業に従事する労働者として、今回の自らの目で見たことを活かし、復旧・復興に向けた支援の輪を広めるために取り組まなければなりません。

原発に頼らないエネルギー政策への転換を求め、脱原発の運動を積極的に取り組ましましょう。

いま

No. 2

清掃事業は…

北区

北支部は、王子支部と滝野川支部が統合し、平成15年に結成された。

北区には現在、北区清掃事務所、滝野川清掃庁舎、浮間事業所(8台稼働)、堀船作業所(作業は委託)、そして北清掃工場がある。区内は「王子・赤羽地区」と「滝野川地区」の2つのエリアで構成されており、王子、赤羽地区では83名(再任用8名、再雇用3名)で、可燃小プ14台(シングル作業)、可燃小特4台(シングル作業)、可燃軽タ4台、不燃軽タ7台の計画により、主に集積所からの収集作業を行っている。

滝野川地区は46名(再任用4名、再雇用4名)で、可燃小プ6台(シングル作業)、可燃小特3台(シングル作業)、可燃軽タ10台(6台は車付雇上)、不燃軽タ3台の計画において、こちらは各戸別による収集である。

軽小ダの上乗りを定数化！



▲車の入れない狭小路地は台車を使いごみを引き出す



▲スケルトン車を使用してごみ収集の実演

北区当局は、「新経営改革プラン5ヵ年計画」の中で「現業退職不補充」を掲げ、北支部も苦慮の戦いを強いられてきた。区移管後12年を振り返ると、訪問収集や戸別収集を中心に、「区民のための清掃事業」を前提とした作業を取り組み、当局に対して直営による事業運営の必要性を訴え、区民が安心して清潔な暮らしを営めることを軸に交渉し、労働条件を確保してきた。

平成24年度作業計画交渉において、新中型車が車付雇上になり(大々、新大はすでに車付雇上)、直営での作業は「小プ、小特、軽小型ダンブ(可燃・不燃)」のみとなってしまった。しかし、今後の高齢期における変化しているが、今後、「資源循環型清掃事業、ごみ減

量について」が北区資源循環推進会議で審査される。北支部が生き残りをかけた労使交渉に臨むのはそれほど遠い話ではないだろう。支部もこのままの作業形態で清掃事業が進んでいくとは考えていない。「直営の清掃事業」を北区でどう展開させるか?新規採用が確保できるか?等、政策的観点から当局交渉をどう進めていくかが、今後の大きな課題となることは言うまでもない。新たな課題となるであろう「区内全域の戸別収集」や「人員削減攻撃」を支部全体で共有しながら団結し、闘う体制を強化していかなければならない。(北区担当中央執行委員 泉田和明)

『オール清掃』 関東甲大会進出！

港区職労に2対1で勝利

自治労野球大会東京都代表決定戦が6月16日(土)、あきる野市民球場で開催されました。関東甲大会進出をかけた対戦相手は、昨年度1対2で惜敗を喫した因縁の相手、港区職労となりました。少ないチャンスを確実にチャンスを迎えたオール清掃は、五番・吉岡優君(千代田支部)の犠打で待望の1点を先取しました。さらに点数を加えたいオール清掃は、六番・高橋義典君(中野支部)がバッターボックスに入ります。カウント1ストライクからの2球目、一閃されたバットから放たれた打球は、左中間を抜くタイムリー2塁打。2塁走者の古橋君が生還して価値ある2点目を追加しました。4回裏の港区職労の攻撃、2アウト2塁からライ

ト前のポテンヒットを許して1点を返されましたが、しっかりと後続を断ちました。最終的に両チームともその後点数を加えられず、2対1という接戦を制して関東甲大会出場を決めました。

結果から4年目のシーズンで見事に関東甲大会進出を決めた東京清掃軟式野球部『オール清掃』は、自治



▲激戦を制し破顔一笑で記念撮影、関東甲大会の奮闘を誓う

部員募集

東京清掃労組軟式野球部『オール清掃』は、各区・一組から部員を募ったドリームチームです。

随時、部員を募集しています。野球の好きな方、一度練習を見に来てください。本部教宣部または部員に声をかけてください。

ひとこと

原発運転の不安がない日々が続いていたのに、政府は大飯原発二基の再稼働を認めてしまった。非常識・無謀・無責任な暴挙であり、なんの安全設備の追加もなく、福島事故と同じ条件のまま再稼働に入るといふ。きつと人命のことなど、微塵の考えもないのだろう。

政府は主権者たる国民が、原発恐怖社会から脱却したいと主張しているのを無視して、核産業で利益を確保したい財界の意志に従っているだけである。すでに多くの被爆者がでており、これからどれだけ被害が拡大するかわからない。

私は昨年、広島の水原禁世界大会に参加し、色々な事から被爆の恐怖さを改めて思い知らされた。その恐怖を、また原発再稼働で繰り返そうとしている。産業の儲けのためだけであり、この国の姿勢は必ず将来に禍根を残すだろう。

子どもたちに汚れた日本を遺させないためにも、労働組合として、またひとりの日本人として脱原発の取り組みを強めていかなければならないと感じる。

(共闘部A・W)